

目次

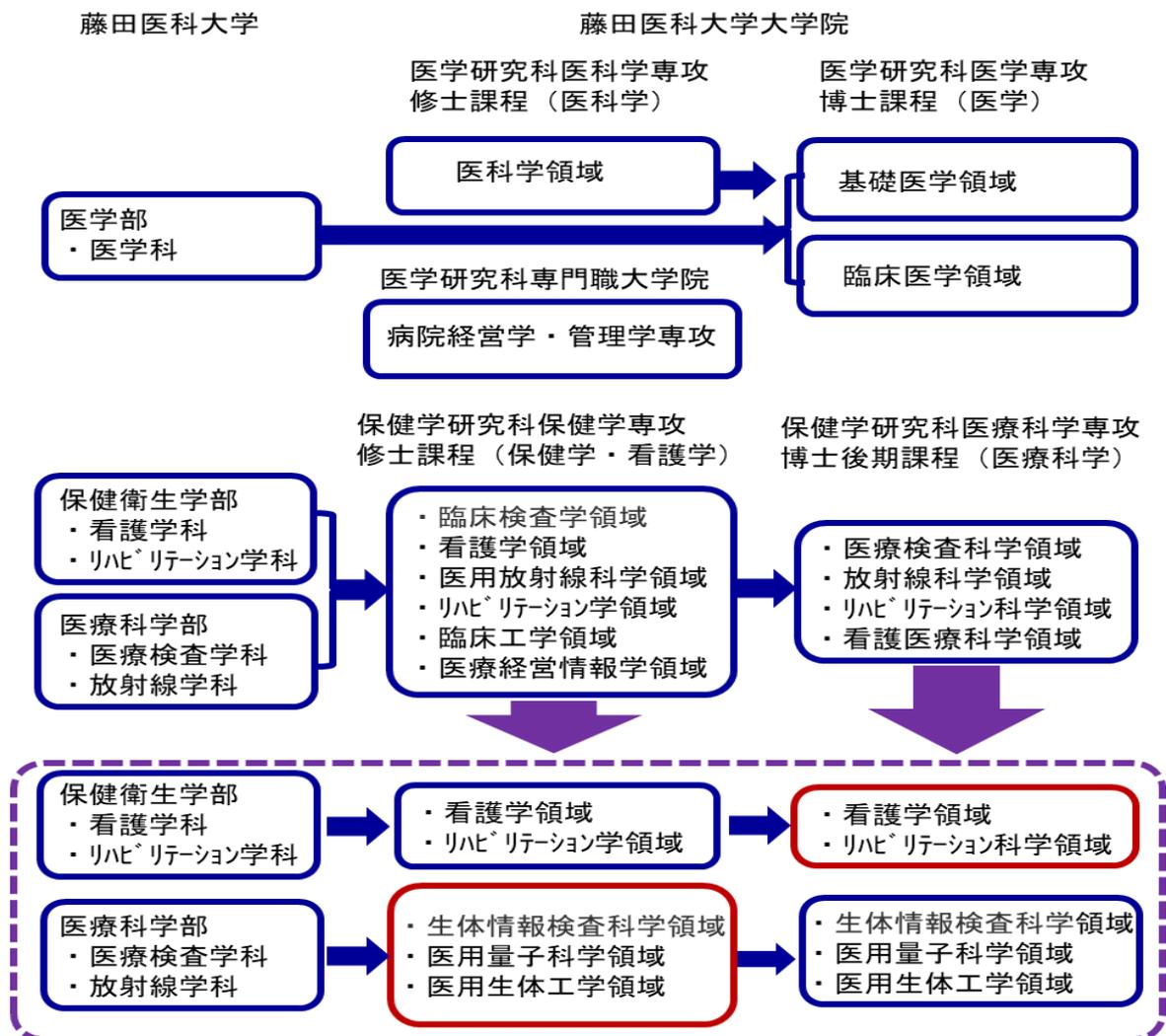
学生の確保の見通し等を記載した書類.....	2
(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
(2) 人材需要の動向等社会の要請.....	5

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

藤田医科大学は、医学部、医療科学部、保健衛生学部の3学部から構成される医療系総合大学である。藤田医科大学大学院には、医学研究科に医学専攻博士課程（医学）と医科学専攻修士課程（医科学）、病院経営学・管理学専攻専門職学位課程（病院経営学・管理学修士）を設置している。また、保健学研究科には保健学専攻修士課程（保健学・看護学）と医療科学専攻博士後期課程（医療科学）を設置している（図1）。本届出では、現行の保健学専攻修士課程および医療科学専攻博士後期課程の各領域を再編し、修士課程においては生体情報検査科学領域（生体情報検査科学分野、遺伝カウンセリング分野、生殖補助医療分野）、医用量子科学領域（医用量子科学分野、医学物理学分野）、医用生体工学領域（医用生体工学分野）を、博士後期課程においては、生体情報検査科学領域（生体情報検査科学分野）、医用量子科学領域（医用量子科学分野）、医用生体工学領域（医用生体工学分野）を設置する。

図1 学部、大学院修士・博士課程組織図



ア. 大学（学部・学科）と大学院（修士・博士（後期）課程）の現状把握・分析

藤田医科大学大学院は、昭和 53 年に医学研究科博士課程を新設し、平成 13 年に保健学研究科保健学専攻修士課程（臨床検査学領域、看護学領域、医用放射線科学領域）を増設した。さらに、保健学研究科においては、平成 20 年にリハビリテーション学領域、平成 24 年に臨床工学領域及び医療経営情報学領域が増設され、その後平成 27 年 4 月に保健学研究科保健学専攻博士後期課程を新設した。現在までに、高度な専門知識と技術を身につけた高度専門職医療人および研究者を多数輩出している。

令和元年 4 月より藤田医科大学は、医学部と医療科学部の 2 学部体制から、新たに保健衛生学部を加えた 3 学部体制に変更した。3 学部体制となった学部構成にあわせ、令和 6 年 4 月より、保健学研究科を医療科学研究科と保健学研究科の 2 つに分け、それぞれに修士課程と博士後期課程を設置する。

イ. 地域・社会的動向の現状把握・分析

本研究科が養成する人材は、本学の建学の精神「獨創一理」の理念に基づき、現行の保健学専攻修士課程（臨床検査学領域、医用放射線科学領域、臨床工学領域）での専門的知識をさらに発展させ、現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、医療科学領域に精通し、高度な知識と科学的根拠に基づき、他領域と連携しながら、各分野における専門的な医療技術の発展に寄与する独創的な研究開発能力と高い倫理観を有した教育者、研究者、指導者である。

また一方、健康長寿社会への実現や、国民からの多様な医療ニーズに対応していくためには、国民が安心して質の高い医療を受けられる医療提供の構築とともに、医療現場の様々な諸課題に対応していくことが必要であり、大学・大学病院を通じて高度医療を支える人材の養成や大学病院の機能強化が求められている（文部科学省高等教育局医学教育課平成 29 年 4 月「課題解決型高度医療人材養成プログラムについて」）。

こうした需要に応えるためにも、現在までに、高度な専門知識と技術を身につけた高度専門職医療人を多数輩出してきた。本学修了生が大学・短大・研究機関等に非常に高い就職率を維持していることから、地域・社会的動向に合致していると考えられる。

ウ. 医療科学研究科の設置の趣旨目的、教育内容、定員設定等

本学医療科学部では、これまでチーム医療の一員として活躍できる医療専門職業人を養成してきた。さらに、大学院保健学研究科では、より専門的な知識と技術を身に付けた高度医療専門職業人と研究者を養成している。

現代社会においては、医療の高度専門化や多様化、再生医療、遺伝子診断、生体工学などの先端科学技術の急速な発展や少子高齢化社会への移行と、それに伴う医療環境の変化が問題になっている。

そこで、現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、医療科学研究科に生体情報検査科学領域（生体情報検査科学分野、遺伝カウンセリング分野、生殖補助医療分野）、医用量子科学領域（医用量子科学分野、医学物理学分野）、医用生体工学領域（医用生体工学分野）の大学院修士課程を設置する。また、博士後期課程において、生体情報検査科学領域、医用量子科学領域、医用生体工学領域を設置する。これは現行の修士課程（臨床検査科学領域、医用放射線科学領域、臨床工学領域）での専門的知識と技術をさらに発展させ、医療科学領域に精通し、高度な知識と科学的根拠に基づき、他領域と連携しながら、専門的な医療技術の発展に寄与する

独創的な研究開発能力と高い倫理観を有した教育者、研究者、指導者を養成する。こうした人材の育成は、これまで多くの「良き医療人」を育成してきた医療系総合大学としての藤田医科大学の責務と考える。

なお、学年の定員は、修士課程において 25 人、博士後期課程においては 4 人とする。この定員は、既存の保健学研究科保健学専攻修士課程定員 50 名、医療科学専攻博士後期課程 8 名を按分したものであり、適切な設定である。

【入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠】

現行の保健学専攻修士課程および医療科学専攻博士後期課程の授業料は、年間 750,000 円としている。入学検定料は 20,000 円、入学金 150,000 円であり、施設整備費、その他の学納金は設定しない。本届出の医療科学研究科医療科学専攻修士課程および博士後期課程の学納金も、引き継ぎ同じ設定とする。

なお、入学金 150,000 円については、博士後期課程の入学試験に合格した者のうち、本研究科修士課程の修了者又は修了見込者は、入学年度学費納入時に入学金を免除する。さらに、授業料(学費)減免制度により、指導教員のもとで本学において自らの研究に専念し、かつ他施設や企業等で常勤の雇用契約を締結していない大学院生については、学費を修士課程は 550,000 円、博士後期課程は 300,000 円に減額する。

藤田医科大学大学院保健学研究科学費等減免規程(資料1)

なお、近隣の東海地区私立大学大学院の入学金および授業料と施設整備費など必要経費を比較した(資料2)。授業料以外の施設設備費や教育充実費を含めた総額は、競合校と比べて比較的学生の負担のない金額であり、本学の学納金は適切な設定であると考えられる。

エ. 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

現行の保健学研究科の学生確保の状況

現行の保健学研究科保健学専攻修士課程において、過去5年間の入学試験状況等を調査した。

保健学専攻 修士課程 入学試験実施結果抽出(2023年度～2019年度)(資料3)

本届出の医療科学研究科に基づく臨床検査科学領域、医用放射線科学領域、臨床工学領域を抽出して、設定定員を 25 名として定員充足率を確認したところ、2019 年から 2023 年にかけて、「1.12～1.6」と推移し、平均定員充足率は 1.32 であった。

また、現行の医療科学専攻博士後期課程において、過去5年間の入学試験状況等を調査した。

医療科学専攻 博士後期課程 入学試験実施結果抽出(2023年度～2019年度)(資料4)

本届出の医療科学研究科に基づく医療検査科学領域、放射線科学領域を抽出して、設定定員を 4 名として定員充足率を確認したところ、2019 年から 2023 年にかけて、「1～2.75」と推移し、平均定員充足率は 1.60 であった。

このことから、修士課程 25 名、博士後期課程 4 名とする本届出の定員設定は、過去5年間において定員充足率を満たしていることから、適切であると考えられる。

また、過去5年間(2023年度～2019年度)における入学者のうち、本学出身者数を調査した。

藤田医科大学大学院 保健学研究科入学者(当該大学出身者)(資料5)

入学者のうち、医療科学部からの卒業生が、本研究科に入学する見込みが極めて高いことが推測され、今後も十分学生確保が見込まれる。

競合校の状況

近隣の東海地区私立大学大学院の設置状況（資料6）を確認した。それぞれ入学定員、志願者数、入学者数、在學生数と定員充足率を確認した。

本学から最も立地条件から近い中部大学大学院 応用生物学研究科応用生物学専攻では、前期博士課程募集定員 24 人に対して入学者数は 39 名、在學生数は 73 名、定員充足率は 1.52 であった。これは学部卒業生の修士課程への進学率が高いことを鑑みることができる。また、博士後期課程は定員 6 に対して 1 人となっており、在學生数は 5 名、定員充足率 0.28 であった。

その他の大学院と比較しても、現行の保健学研究科修士課程および博士後期課程における入学者数、在學生数、定員充足率は、すべてにおいて高い数値となっており、本届出の医療科学研究科においても、今後十分学生確保が見込まれる。

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学では、各学部長を委員長とする「入試広報委員会」を設置している。学生募集、入学者選抜方法、実施等に関する方針、広報業務、入試実施業務等を一括して募集活動を実施している。大学院生の確保に向けた取り組みとして、主に行う項目は以下のとおりである。

- ・ 現行の保健学研究科保健学専攻修士課程と医療科学専攻博士後期課程の方法と同様に、大学ホームページに募集要項等を開示する。
- ・ 関連大学に募集ポスターやパンフレット、募集要項を送付する。
- ・ 大学院説明会を修士課程と博士後期課程の合同で行う。

これらの取り組みの継続と研究室のホームページの充実、研究業績と教育および研究内容も要点を絞り詳細を広く公開するようにして取り組む。その取組効果については、本学保健学研究科修士課程と医療科学専攻博士後期課程の現状と同等な効果が見込まれる。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

【養成する人材像や教育研究上の目的】

現代社会においては、医療の高度専門化や多様化、再生医療、遺伝子診断、生体工学などの先端科学技術の急速な発展や少子高齢化社会への移行と、それに伴う医療環境の変化が問題になっている。

本学医療科学部では、これまでチーム医療の一員として活躍できる医療専門職業人を養成し、既存の大学院保健学研究科保健学専攻修士課程および医療科学専攻博士後期課程では、より専門的な知識と技術を身に付けた高度医療専門職業人を養成してきた。このたび、本研究科が養成する人材は、本学の建学の精神「獨創一理」の理念に基づき、現行の修士課程（臨床検査学領域、医用放射線科学領域、臨床工学領域）での専門的知識をさらに発展させ、現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、医療科学領域に精通し、高度な知識と科学的根拠に基づき、他領域と連携しながら、各分野における専門的な医療技術の発展に寄与する独創的な研究開発能力と高い倫理観を有した教育者、研究者、指導者である。

また、建学の精神「獨創一理」を礎とし、将来の医療の進むべきビジョンに向けて先進的な研究を推進するとともに、革新的なイノベーションにより基礎・臨床研究で成果を挙げ、グローバ

ルな視点から医療・生命科学に関する課題を自ら見出し、先進技術を駆使しながら問題解決できる能力を涵養する。さらに、産官学民連携・異分野連携なども推進しながら、得られた成果を国内外に発信できる能力を習得させる。

②社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

【修了後の進路および社会の人材需要の見通し】

研究科修了後の進路は、医療資格や医療科学の知識を生かし、病院や医療関係・企業への就職を希望している。また、進学して、研究者としての道を進む修了者もあり、いずれの進路を選択する者に対しても、我が国の医療科学研究の発展と医療業界において、中心的な役割を担う人材を養成することは、社会の発展に応えるために極めて重要である。なお、以下の通り現行の保健学研究科修了生の進路状況について調査した。

保健学専攻修士課程 卒業者数及び卒業生進路状況(2020～2022) (資料7)

保健学研究科保健学専攻修士課程の過去3年分の進路状況は、2020年3月修了生32名のうち、病院・医療関係は23名、企業8名、公務員1名であった。2021年3月修了生25名のうち、病院・医療関係は17名、企業4名、博士課程への進学は4名であった。2022年3月修了生28名のうち、病院・医療関係は16名、企業10名、博士課程への進学は2名であった。卒業後の進路として、ほぼ全員が職についており、今後も人材需要の安定が予想される。

医療科学専攻博士後期課程 卒業者数及び卒業生進路状況(2020～2022) (資料8)

保健学研究科医療科学専攻博士後期課程過去3年分の進路状況として、2020年3月修了生1名は社会人大学院生、2021年3月修了生7名は社会人大学院生、2022年3月修了生9名のうち8名は社会人大学院生であり、1名は大学教員として採用されている。博士後期課程の多くは社会人大学院生であり、修了後も社会人として勤務を継続して社会に貢献している現状から、今後も人材需要の見通しは問題ないと予想される。

以上の進路状況および就職実績から、保健学研究科修了者が、社会的・地域的に求められている人材であることが強く示唆されている。本届出の医療科学研究科の修了生に対しても、今後も企業・病院の需要が存在すると考えられ、社会的、地域的な人材需要を含めた社会の動向に十分に 대응することができる。